

沈黙による拒否の日米比較 —オリジナル版映画とリメイク版映画での比較—

Comparison of Silent Rejection in Japan and the United States
—Comparison between the original film and the remake—

中西 里菜
Rina Nakanishi

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 修士課程

キーワード：人間，生活，文化
Key words：Human, Life, Culture

1. 研究目的

私が「日本とアメリカの拒否による沈黙の差」を選んだ理由は、日本と海外のコミュニケーションの違いを学びたいからだ。そして私が特に興味があるのは「沈黙」である。沈黙とは「誰も話さず、静かであること」と定義されており、この定義は日本辞書でも英語辞書でも同じだ。しかし、コミュニケーションの観点から「沈黙」を考えると、そこには違いがあると考えられる。

本研究では、日本語話者と英語話者の沈黙の有無と種類分けした際の割合の違いを明らかにするために、以下の2点について検討する。

- 1 日本映画と英語映画の拒否による沈黙の有無を比較し、そこに違いがあるのだろうか。
- 2 日本映画と英語映画に現れる拒否による沈黙の意味を分類した場合、その割合に違いはあるのだろうか。

異文化コミュニケーションにおいて「沈黙」は研究されてきたテーマだが拒否による沈黙について比較されてこなかった。

現在は自分の立場を明確にし、映画分析を通して沈黙の場면을より明確にし、意味の分類分けをしていきたい。また分類分けの方法を明確にし定めたい。

2. 研究実施内容

まずは年間スケジュールの確認をすることから始め、修士論文を完成させるまでの大まかな計画を立てた。その後、資料収集や文献調査を

行い定義などを確認した。次に実際に映画を分析し、場面比較を行った。
現在は映画「生きる」を視聴し、場面の切り取りを行っている。

3. まとめと今後の課題

計画通りにスケジュールが進んでいるので、今後もこのペースを保っていきたい。

今後の課題としては引き続き場面の切り取りを行うと同時に、中間発表までにどれだけ完成度の高い論文結果が出せるかだ。まず第1の目標としては5月の題目提出だ。

5月：題目提出

研究方針を定め、先行研究を基に実現可能かどうかを担当教員と話し合い題目を決定する。

6月：中間発表

論文の2/3を関係させ、本番の発表にできるだけ近い状態で発表する。そして教授方の意見を聞き、研究をさらに発展させる。

7月：中間発表の反省

中間発表で自分で感じた、論文に足りない情報や場面などを書き出し本番に向けて改善する。

8月：残りの1/3を完成させる

本格的に論文をまとめ、論文を大まかに完成させる。

9月：題目変更（あれば）

論文を大まかに完成させたことで、題目の変更が必要であれば対応する。

10月：論文概要

研究の具体的な構想を練る。土台を作り終え、具体的な構想を作ることによって矛盾が起こらないようにする。

11月：まとめ

概要を提出したことで気づけた、自分の論文に足りない点などを追加する。

12月：論文完成

論文提出の1ヶ月前に論文を完成させ、誤字脱字の確認や担当教員以外の教授に疑問点などを聞く。

1月：論文提出**付記**

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の令和6年度大学院生研究助成(B)(DB2421)「沈黙は何を意味するか—映像作品による日英比較分析—」を受けたものである。